

アートの力で炭鉱遺産の価値と記憶を甦らせ、  
炭鉱の記憶と人々を繋ぎます。



# そらち炭鉱の記憶 アートプロジェクト 2016 〈Klein クライン〉

入場無料

10/1 → 10/30 Sun

10:00～16:00 (入場は15:30まで)

土日祝日のみ11日間開催

9/24・25 施設公開

メイン会場 ほんべつ  
旧住友奔別炭鉱

選炭施設石炭積み出しホッパー

立坑前広場

関連展示会場

旧国鉄 唐松駅舎 / 旧国鉄 三笠駅跨線橋

主催 :



特定非営利  
活動法人  
炭鉱の記憶推進事業団

特別協力 :



札幌市立大学  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

# そらち炭鉱の記憶 アートプロジェクト2016〈Klein〉

石炭を掘り出した瞬間から、果てしない石炭の輸送が始まります。地下深くから地上へ、山元から需要家へ。そのため「石炭産業は輸送業だ」といわれてきました。

1960年代、エネルギー革命に対抗して、輸送プロセスに画期的な技術が導入されました。地下から地上へ垂直に最短距離で石炭を運ぶための設備である「立坑」です。同じ時期に相次いで建設された2つの立坑が、今も空知産炭地域に残っています。1960年建設の住友奔別立坑、奔別立坑の改良版として1963年に建設された住友赤平立坑です。ともにドイツの技術を導入して、東洋一の立坑といわれました。建設の記録映画「立坑」では、その意義と期待が高らかにうたわれています。

—— 北海道の一隅に、エポックメイキングな立坑が誕生しました。二本索の使用、ガイドローラーの採用等、幾多の特徴を持つモデルプラントであります。この立坑の出現によって、運搬系統の合理化、炭鉱の若返りが期待され、採炭法の経済性をいよいよ増大し、わが国産業界の発展に、大きく貢献して行くことであれましょう。——

しかしその後、この兄弟立坑の命運は、皮肉にも大きな隔たりが見られました。赤平立坑は1994年まで31年間も操業したのに対して、奔別立坑は札幌オリンピックの建設ラッシュのあおりを受けてわずか11年間で閉山しました。そして何よりも、赤平立坑は2016年7月に赤平市が取得し保存活用に向か大きな一歩を踏み出したのに対して、奔別立坑は存廻いざれに決するのか予断を許さない状況にあるという大きな違いがあるのです。

今回で8回目となる《そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト》では、地下→立坑→ホッパー→鉄道（駅）→人々の暮らしや産業…という石炭の流れを想起させるアートの補助線によって、炭鉱の輸送プロセスに革命をもたらした「立坑」の存在と意義を、実見・実感して頂ければと願っています。

[出品作家] 札幌市立大学 学生・卒業生・教員



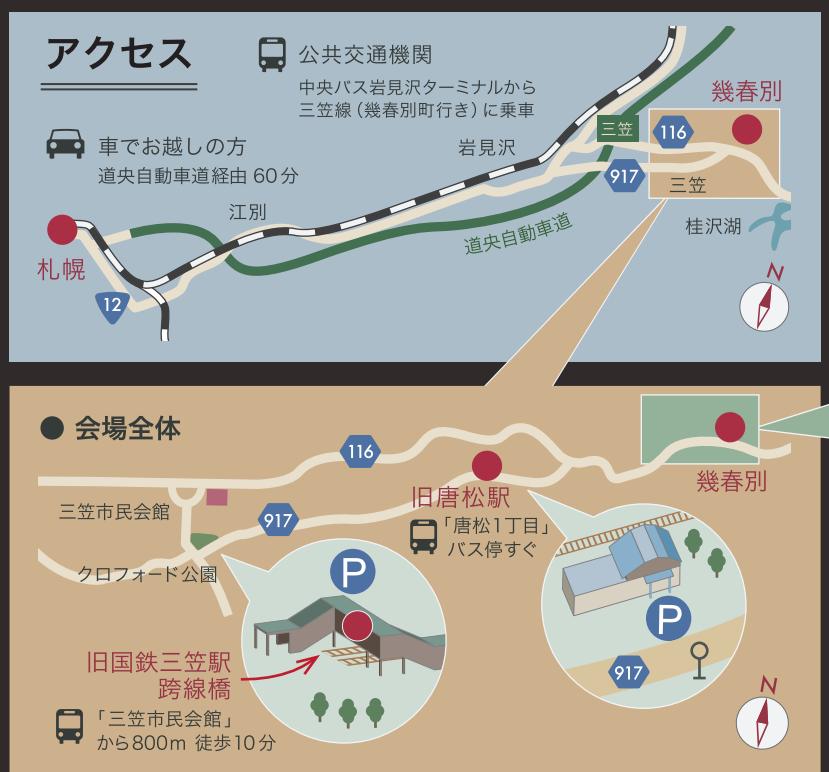
2016  
10/1 Sat → 10/30 Sun

10:00～16:00 (入場は15:30まで)  
土日祝日のみ 11日間開催

日	月	火	水	木	金	9/24
25	26	27	28	29	30	10/1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

■ 施設公開日 ■ 作品展示日

Klein = ドイツ語で「小さな」という意味。今年のアートプロジェクトは例年よりもやや小規模な開催内容となっています。



## お問い合わせ

そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

☎ 0126-24-9901

岩見沢市1条西4丁目3 / 10:30～17:30 (月・火曜休)